# 2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年　　4 月　23　日

| 所属 | 人間社会学部 | 職名 | 准教授 | 氏 名 | 中倉智徳 |
|---|---|---|---|---|---|
| 研究課題 | 公共社会学の理論的検討および市川地域での応用可能性について | | | | |
| 研究キーワード | 公共社会学、地域、アクティブラーニング | 当年度計画に対する達成度 | 2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた | | |
| 関連する SDGs項目 | 11. 住み続けられるまちづくりを | 1. 貧困をなくそう | 5. ジェンダー平等を実現しよう | 16. 平和と公正をすべての人に | |

１．研究成果の概要

本研究の目的は、現在において行われている地域と大学との協働関係を踏まえた上で、それを公共社会学的観点で整理し直すために、その理論的検討および応用可能性の検討を行なうものであった。

また本研究では、理論的な検討と応用可能性の両面から検討をすすめていくことを目指した。理論的には、提唱者であるブラウォイの公共社会学に関する論文や、その後に批判的検討を行なっている諸研究を検討していった。検討の結果、公共社会学からさらに視点を広げ、アクターネットワーク理論との連関を検討していきたい。公共社会学の観点は重要であるが、それを地域実践で実装する際には、公衆というだけではなくさまざまなアクターの協働－ネットワーク関係として理解することが重要であると判断したためである。

第二に、実際に市川市を中心として申請者が行っている地域との連携活動に対して、どのように応用可能かを検討していく。そのため、じっさいに人間社会学部の「アクティブラーニング」として活動している地域での協力者へのインタビュー等を行なう予定である。

２．著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

（共著）

千葉商科大学人間社会学部編『はじめての人間社会学――現代社会と SDGs』第２版，中央経済社 2023 年 4 月

（担当:分担執筆，範囲:「第 4 章 わくわくする，調べる，自由になる――はじめての社会学」61-76 頁）

（単著論文）

中倉智徳「私的所有と相互所有」 『現代思想』 52(3) 79-84 2024 年 2 月

【学会発表等】

なし

３．主な経費

主に書籍購入に用いたほか、地域での活動実践に必要な物品の購入も行った。

４．その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

・大学コンソーシアム市川共同研究「共生のための文化芸術プログラム（ACCS = Art and Culture for Convivial Society)」研究代表者：人文学部日本文学文化学科 准教授 小野真嗣　（実施期間：2022 年 10 月～2024a 年 9 月）

（本文は 2 ページ以内にまとめること）